

## 令和7年度の学校評価

本年度の重点目標	<p>安全で安心な学校づくりを確立するために、家庭や地域、企業との連携を図りながら教職員が一体となって推進する。また、生徒や保護者の夢を形づくるなど、3年間の学びを通して、社会から期待される生徒の育成や地域から愛される学校を目指す。</p> <p>(1) 職員は、生徒との好ましい人間関係をつくり、教育活動に取り組む。</p> <p>(2) 基礎・基本を大切にして、スモールステップを踏むなど分かりやすい授業を実践すると共に、生徒の学習意欲を引き出すための授業改善に取り組む。</p> <p>(3) 職員は、自ら指導技術を磨き教育への見識を高めるとともに、品性を磨き、豊かな教養と広い社会的視野をもち、資質能力の向上と授業規律の確立に努める。</p> <p>(4) 基本的な生活習慣の確立を図り、全校生徒が自ら進んであいさつができるように、生徒を主体としたあいさつ運動の支援を行う。</p> <p>(5) 教育活動全般を通して、生徒が思いやりをもち、互いの個性を尊重しつつ周りの生徒と協力して行動できるように、生活指導を推進する。</p> <p>(6) 生徒を地域のイベントに積極的に参加させるなど、より多くの学びの機会を設け、活動を通して達成感や自己有用感などを体得させ、自ら進んで学ぶ姿勢を養う。</p> <p>(7) 工科高校として、時代と地域社会に即した教育の在り方について研究する。</p> <p>(8) 普段の教育活動や行事など生徒の活動の様子について、ホームページなどを積極的に活用し家庭や地域社会に向けた情報発信に努める。</p> <p>(9) 安全衛生委員会などの既存組織を活用し、ワーク・ライフ・バランスに十分配慮し、職場環境を整えていく。さらに業務改善に向けた取組として「業務の見える化」を進め、業務を分担できる協働体制をつくる。</p>		
項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A諸活動を通し、保護者に学校生活を開かれたものにする。</li> <li>・ 災害時の初動に支障をきたさない対策をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校行事のみならず、各種会議やP T A活動へ参加していただき、学校で過ごす時間を多くする。</li> <li>・ 避難経路図やマニュアルの整備を行い、より洗練されたものにする。また、それを周知して訓練等の際にも用いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者対象の進路先見学会を新たに行い、P T A活動を多くの方が前向きに参加したくなるような内容に改善した。次年度は、実施時期を改め、さらに参加者を増やしたい。</li> <li>・ 校内工事のため、避難経路を考え直して避難訓練を2回実施することができた。現状に合わせた避難経路を来年度も考える必要がある。</li> </ul>
教務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習習慣を定着させ、基礎学力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日ごろの授業に臨む上で、予習や復習の大切さを啓発し、基礎学力の向上につなげる。</li> <li>・ 家庭における学習習慣を確立、定着をさせる。</li> <li>・ 外部機関との連携を図り、全職員の協力のもと一人一人の学習に寄り添ったサポートを行い、学習に対する意欲の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夕学の取組が定着し、学習するスイッチの切り替え方法をつかめた生徒が多くなった。</li> <li>・ 定期考査前は、学習に取り組めるが、継続して取り組む事が苦手な生徒が多い。家庭で学習できる取組を増やし、家庭学習の定着につなげていきたい。</li> <li>・ 外部機関のデジタルコンテンツを利用した学習を来年度から本格的に始める。生徒一人ひとりの学習レベルにあった学習を家庭等で行うことで、基礎学力向上を図っていきたい。</li> </ul>
図書部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習センターとしての機能を持った図書館の充実を図る。</li> <li>・ 教員の教科指導力向上のための研修を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 魅力的な図書館のディスプレイや生徒が読みたいと思う新刊図書を整備する。</li> <li>・ 調べ学習などの授業がしやすいように、整備する。</li> <li>・ 授業公開期間を設定し、また保護者授業見学会を開催することで、教員の授業力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書購入費が削減される中で、生徒にとって魅力的な新刊本や雑誌をできる限り購入し、昨年度よりも活気のある図書室にすることができた。</li> <li>・ 保護者授業見学会や授業公開期間を設定し、教員の授業力の改善を図ったが、まだまだはっきりとした効果は表れていない。</li> </ul>

項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会のルールやマナーの遵守、規範意識の確立</li> <li>・ 5分前登校の徹底と交通事故件数の減少</li> <li>・ いじめの早期発見と適切な事案対処</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校活動を通して、マナーやモラルを向上させ、社会の一員として自覚を持ち、ルールを遵守させる。</li> <li>・ スマートフォンや SNS 利用のルールやモラルを徹底させる。</li> <li>・ 生活習慣を整えさせ、日頃から余裕をもった時間感覚を身に付けさせる。</li> <li>・ 長期連休明けに交通事故が増えている現状を踏まえ、重点的に早朝立ち番指導や交通安全指導を行う。</li> <li>・ いじめの情報収集、事案対処の在り方について検証し、いじめの早期発見に努めるとともに適切な対処を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一部の生徒に自分の価値観を主張し、校則やルールの守れない者がいるため、全校集会や個別指導で意識改革をしていきたい。</li> <li>・ 本年度、SNS による大きな生徒指導はなかった。引き続き情報モラルや情報リテラシーの関する指導を徹底していききたい。</li> <li>・ 遅刻数は相変わらず増加傾向にある。生活習慣と同様に時間管理の大切さを理解させていきたい。</li> <li>・ 令和8年4月より自転車に関する罰則が厳しくなるため、周知徹底を行い、交通違反や事故を少なくしていきたい。</li> <li>・ 生活アンケート後、担任、保健厚生部などと協力して、迅速な対応ができた。上手く他人との関係を構築できない生徒が増えてきているため、生徒間の違和感に敏感に対応していきたい。</li> </ul>
特活部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動や学校(生徒会)行事への積極的な参加を促す。</li> <li>・ 福祉、ボランティア活動を通して慈愛の心と社会人基礎力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3年間の部活動の定着及び活性化を図る。</li> <li>・ 学校行事が生徒主体で行えるように計画し支援する。</li> <li>・ 福祉、ボランティア活動を通して、地域に貢献できる生徒の育成を目指す。</li> <li>・ あいさつのできる社会人の育成を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本年度より部活動の登録を全学年希望制とした。1年生の登録人数は減少したものの、各部活動で県大会出場以上の成果を上げることができている。</li> <li>・ 学校行事の運営、司会を積極的に生徒会生徒が行うことができている。</li> <li>・ 清掃ボランティア活動では、多くの生徒が積極的に参加している。さらに校外のボランティアへの参加を呼び掛けていきたい。</li> <li>・ あいさつ運動が年間120回実施することができた。日本一あいさつのできる学校を目指していきたい。</li> </ul>
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリア教育を推進し正しい職業観・勤労観を育み、生徒の進路選択、進路実現の支援に努める。</li> <li>・ 選科の実施に当たり、生徒の将来設計を考えた選択ができるように努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担任と学科を中心に、すべての職員との連携を深め、情報提供および情報交換を密にし、連携をした進路指導を目指す。</li> <li>・ 選科を実施するにあたって、学年会、学科主任、家庭科主任、工務主任と協力して分かりやすい資料作成や情報提供を実施し、生徒の将来設計に対して、ミスマッチがないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Teams と生徒連絡会を活用して進路指導部からの情報発信を行った。結果として、進路情報と生徒の情報を共有することができ、各分掌と連携を取りながら進路指導を進めることができた。</li> <li>・ 選科について、学科・学年などの各分掌と協力して実施することができた。</li> <li>・ 生徒や保護者へ進路情報の提供が期待されている。より主体的に進路選択ができるように情報発信に取り組んでいきたい。</li> </ul>
保健厚生部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全で清潔な環境整備に努め、学校全体で取り組む体制を整える。</li> <li>・ 基本的な生活習慣を確立させ、心身の健康を保ち自主的な健康管理が行えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清掃活動への意識を高め、教員と生徒がともに環境を整える。</li> <li>・ 保健指導を通して健康に対する意識の向上を図る。</li> <li>・ ヒヤリハット、安全点検、救急法研修を生徒、教員が真摯に取り組む。</li> <li>・ 教員、保護者、関係機関が連携して生徒を支える体制を築く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員が清掃する姿勢を示すことで、生徒の取組状況は向上している。</li> <li>・ 学校安全に対して、意識を高く保ち、ヒヤリハット報告や救急法研修・シミュレーション研修を真剣に取り組むことができています。</li> <li>・ 昨年度より感染症罹患患者数の減少、朝食欠食率が減少している。</li> <li>・ 速やかな情報共有や連携ができていますが、個別の生徒の対応に苦慮しており、関係機関との連携をより一層図る必要がある。</li> </ul>

項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
工務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得、競技大会など、生徒の学ぶ力と意欲向上を図り、その成果を中学生や地域に情報公開をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科、教科、学年会と連携し、資格取得の合格率向上を図る。</li> <li>資格取得の掲示物を作成し、生徒の資格に対する意識を高める。</li> <li>情報化推進委員によるホームページ更新を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度より「工務だより」を毎月刊行した。生徒・保護者に資格情報を案内したことで、資格取得への挑戦者が増加した。</li> <li>Instagramを開設し、生徒の活躍や行事、部活、学科などの広報活動を行い、地域社会に向けた情報発信に努めることができた。</li> <li>情報化推進委員を中心にInstagramで部活や学科の情報を増やしていきたい。</li> </ul>
機械科	<ul style="list-style-type: none"> <li>時代と地域社会に即した学習の在り方と持続的な教育技能について研究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各実習ショップにおける指導者マニュアルを改善し、作業と評価の標準化および作業安全の共有化を進める。</li> <li>企業見学や、地域イベントへ積極的に参加し、企業からの要望や地域の声を集約し、授業や実習テーマについてキャリア教育の最適化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会計任用教員による授業・実習時間が大幅に増えたため、授業や実習内容の標準化が進んだ。</li> <li>安全作業の共有に力を注いだが、評価の標準化を図るためには時間と人員が足りなかった。また、安全マニュアルの実効性を高める方策が課題としてあがった。</li> </ul>
電子工学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全を意識した作業の定着を図る。</li> <li>進路実現のために、様々な学習や体験を通じて勤労観や職業観を養うことで、専門分野への学習意欲を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見直しを加えた実習系のテキストを活用して安全指導を徹底し、実習に伴う危険予知トレーニングを行う。</li> <li>企業見学や外部講師を活用し、勤労観や職業観を養う。</li> <li>進路実現に向けて専門分野への学習意欲を向上させ、学力の向上を図るとともに、資格取得に向けた提案やサポートを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各テーマおよび作業のリスク見積表をもとに、作業手順や留意事項を教員と生徒で共有でき、その結果、安全に作業を行うことができた。さらに今年度の事故報告を参考し、次年度に改善を図りたい。</li> <li>学年に応じたガイダンスや現場見学を実施することができ、キャリア教育の充実を図ることができた。</li> <li>資格取得に対する意欲の向上が見られ、第二種電気工事士の取得者数が増加した。また、1年生の生徒が、資格取得について相談や説明を求めてくるなど、資格に対する意識向上が見られた。</li> </ul>
建築デザイン科	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全作業の習慣化を促進する。</li> <li>多様な学習や経験を通じて、勤労観や職業観の発展を支援する。</li> <li>大学と連携した活動を行い、学習意欲を向上させるとともに、進路の選択肢を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習前にリスクアセスメントを実施し、安全マニュアルを活用する。</li> <li>企業と共同で技能体験会や現場見学会を企画し、生徒の勤労観や職業観の形成を促進するキャリア教育を提供する。</li> <li>大学や専門学校の講師を招いて講義を行う出張授業や、ICT機器を用いたオンライン授業を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習前のKY活動を継続して実施でき、生徒の安全意識が全体的に向上した。安全作業への意識付けが定着してきた。</li> <li>校内技能体験会や地域建設業との連携により、実践的なキャリア教育を実施でき、生徒の職業理解が深まった。今後も継続していきたい。</li> <li>高大連携で愛知産業大学とオンライン授業を3日間実施し、建築への理解が深まった。コンペや木工交流会に挑戦する生徒も現れた。</li> </ul>
環境科学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格、検定取得の充実</li> <li>授業における、安全教育、安全作業の定着</li> <li>進路の選択実現のため、自ら努力する姿勢作り</li> <li>カリキュラム変更へ対応した教科指導</li> <li>校外への情報発信の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格、検定の指導体制・補習の充実。</li> <li>RMの推進と安全マニュアルに基づく作業の徹底をする。</li> <li>職場見学、社会人講師の講話などを通じて、進路考察やキャリア教育を行う。</li> <li>来年度の2年生から導入する新教科への内容検討を行う。</li> <li>中学校訪問、校外活動などを通じて、校外への情報発信を積極的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2, 3年生の資格指導について、授業と連携させた指導体制を整えることができた。</li> <li>実技を伴う授業において、安全教育、安全作業の定着が出来たが、予想ができない行動をする生徒についての安全面の対策を進める必要性を感じた。</li> <li>新教科の内容で、実習との連携を図れるように家庭科と検討をしていきたい。</li> <li>Instagramを利用し、校外活動やイベントにおける生徒の活躍を校外へ情報発信することができた。</li> </ul>

項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
3年学年会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的生活習慣の定着と社会人基礎力の向上</li> <li>・ 進路実現に向けてのキャリア教育の充実</li> <li>・ リーダーの育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遅刻数の減少など、時間を守り、自己管理ができる生徒を育成する。</li> <li>・ 実行力、考え抜く力、チームで働く力など、社会人として必要な能力の向上を図る。</li> <li>・ 進路実現のための自己分析と企業や進学先の研究機会を設ける。</li> <li>・ 部活動や学校行事などに積極的に参加させ、主体的に行動ができる人材育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年全体として概ね自己管理はできている。しかし、特定の生徒は、遅刻数や5分前行動等の時間の管理の改善を図ることができなかった。</li> <li>・ 部活動や学校行事、進路実現に向けた取組の中で、多くの生徒が社会人として必要なコミュニケーション能力等を向上させることができた。</li> <li>・ 進路指導部や学科と連携し、進路実現に向けた活動や行事によって、生徒が自身の進路実現のために行動ができた。</li> <li>・ 学年全体として部活動や学校行事へ積極的に取り組むことができた。その中でもリーダーシップを発揮し、部や学年、クラスのために行動する生徒が一定数いた。</li> </ul>
2年学年会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的生活習慣の定着</li> <li>・ 進路実現に向けてのキャリア教育の推進</li> <li>・ リーダーの育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5分前行動を習慣づけ、昨年度より遅刻数を減少させる。また、自ら率先して行う挨拶と身だしなみの向上を図る。</li> <li>・ 自己分析を通して、将来像を考えさせる。</li> <li>・ 進路実現のために何をしたらよいのか思考を深めさせ、行動させる。</li> <li>・ 学校の中核を担う学年として、部活動や学校行事などに積極的に参加させ、主体的に行動できる人材育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの生徒は、時間を意識し、5分前行動ができている。また、身だしなみについてその場にあった服装を意識し、整える意識が少しずつであるが育っている。</li> <li>・ 自分の進路実現のためにHR、進路ガイダンスなどを使って、自らを振り返り自分が働いているイメージを持った上で、自分に適した企業を希望し、そこへ就職できるよう何が必要か考えることができるようになってきた。</li> <li>・ 学習面において、自分のこととして前向きに頑張ることのできない生徒が見られるため、今まで以上に学年全体で取り組ませていきたい。</li> </ul>
1年学年会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的生活習慣や学習習慣、授業規律の確立</li> <li>・ 工科高校生としての自覚を持たせ、進路実現に向けた目標設定を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5分前行動や自ら率先して挨拶を行うことを意識づける。</li> <li>・ 授業開始前の教材準備と着席を徹底し、落ち着いて授業に取り組ませる。</li> <li>・ 各教科学科と連携を図り、授業や提出物の取り組み状況を共有する。</li> <li>・ 資格取得や部活動、学校行事、ボランティア活動などに目標をもって取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの生徒は、5分前行動や率先した挨拶の意識づけができた。しかし、特定の生徒は、登校時刻の遅れや挨拶の実践が不十分な面があり、今後はその重要性をより理解できるような工夫を進めたい。</li> <li>・ 授業規律は概ね良好である。しかし、一部の授業では、私語や居眠りが見られる報告があり、改めて授業の重要性を生徒に理解させる工夫が必要である。</li> <li>・ 授業や提出物の取組状況を教員間で共有したことで、課題提出率や学力の向上に一定の成果が見られた。</li> <li>・ 検定試験は、比較的良好な結果が得られ、生徒の努力が見られた。一方で、部活動の加入率、学校行事への積極的な参加は物足りなさを感じた。今後は、生徒が主体的に取り組める具体的な支援策を考えていきたい。</li> </ul>
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夕学を行うなど、継続的に基礎・基本を大切にする学習活動を進めてきた。多くの生徒は、学習活動に前向きに取り組んでいる。しかし、特定の生徒は継続した学習が定着していない状況もある。生徒の学習レベルに合わせた学習を学校と家庭の双方で、支援できる環境づくりを検討していきたい。</li> <li>・ 生徒会が主催する「あいさつ運動」は、3年連続で100回を超え、生徒主体の活動として定着してきた。継続的な取組として進めていきたい。</li> <li>・ 教育活動や学校行事における生徒の様子を、公式インスタグラムを活用して発信した。これにより、家庭や地域社会に向けた情報発信を一層強化することができた。</li> <li>・ ワーク・ライフ・バランスの観点から、デジタル採点やクラウドサービスの活用を通じて働き方改革を進めてきた。これにより、業務効率の向上など一定の効果が見られた。</li> </ul>		